



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東大第二内科入局。1995年、大阪府長尾クリニックを開業。外来診療まで「人を診る」総合診療を目指す。著「痛くない死に方」は、関西国際大学客員教授。

で亡くなりました。96歳でした。死因は心不全ということでした。

報道によると、2017年の夏あたりから体調を崩すようになり、昨年の9月に入院。心臓や腎臓などが徐々に弱っていき、10月半ばには「いつ何があってもおかしくない」と医師から言われていたそうです。

養子縁組して家族になられた、浄瑠璃三味線奏者の誠己さんによると、「苦しみことな

く、穏やかに眠りについた」とのこと。大好きなアイスクリームも、最期まで召し上がっていたといえますから、大往生といえるでしょう。

これだけ日本を愛し、憂いてくれた人に、日本の医療は素晴らしいから、と最期に思ってもらえたらと願わずにはいられません。

キーンさんが初めて訪れた日本は、戦時中の沖縄でした。1945年、アメリカ軍の通訳兵として「上陸」したのです。その前に訪れたアツ島では、日本軍の玉砕を目の当たりにしていました。北谷町に上陸し普天間へ。そこで、捕虜になることを恐れ自死しようする人たちに

「死ぬな！」と呼びかけたこともあったそうです。「捕虜になると女性は強姦され、子どもは殺されると日本軍の文書にはあった。だから、死ななくていい人たちが命を絶った。日本軍の上層部がしたことは本当に許せない」と語っておられました。日本兵の日記も、たくさん翻訳されていました。

「人間はマス(集団)の一部になると性格が変わる。戦争下、日本人にもそういうことがあった」

そう、キーンさんはアメリカ人でいながら、日本の戦争体験を語る人でもあったのです。その後、何度も沖縄を訪れて、反戦の想いを語られています。

「沖縄の人は十分苦労した。他県の人が苦労しないのは不公平だ。米軍にも言い分はあるだろうが、なぜ沖縄に米軍が必要なのか分からない」

キーンさんが旅立ったのは、凶らずも辺野古の県民投票の日でした。

平成とともに忘れたいこと、終わらせたいこともたくさんありますが、忘れてはならないこともまた、たくさんあります。まもなく訪れる「3・11」、東日本大震災も忘れてはいけません。8年前、もう日本に住むのは危ないという噂が流れ、外国に逃げた人もいました。本国から避難命令が出て、母国へ帰った外国人も多くいたそうです。しかし、その逆もいた。

95 日本文学研究者 ドナルド・キーン



お白石持行事に参加したドナルド・キーンさん—10日午後1時14分、三重県伊勢市 (門井聡撮影)

「日本から外国人が逃げ出し、腹立たしかった。私は日本人と共に生き、行動し、共に死にたい」
そう決意し、89歳で日本国籍を取得したのが、日本文学研究者のドナルド・キーンさん。いえ、日本人になってからはキーン・ドナルドさんでした。キーンさんが、2月24日に都内の病院

東日本大震災で心に決めた「日本国籍取得」